## OPIワークショップ日本開催30周年・アルク創立50周年記念シンポジウム

## 日本語OPIが切り拓く新たな日本の社会

【主催】アルク

【協力】日本語OPI研究会・日本語プロフィシェンシー研究学会・九州OPI研究会・浜松OPI研究会・凡人社

日本国内でACTFL-OPI試験官養成ワークショップが開催されて30年になります。これまでに1000名ものOPIテスターを輩出してきました。この度、日本語OPIの先駆者である牧野成一プリンストン大学名誉教授をお招きし、OPIワークショップ日本開催30周年記念シンポジウムを開催します。講演、パネルディスカッションを通して、社会と繋がり、社会を切り拓く日本語教育と日本語OPIを考えます。多くの方のご参加をお待ちしております。

【開催日程】2019年4月7日(日)13:30~17:00 ※終了後、懇親会あり

【会場】TKP市ヶ谷カンファレンスセンター (東京都新宿区市谷八幡町8番地 JR・地下鉄市ヶ谷駅より徒歩2分)

【定 員】シンポジウム200名 懇親会100名 ※お早めにお申し込みください

【参加費】シンポジウム1,000円 懇親会3,000円

【プログラム】13:30~13:40 開会の挨拶



13:40~14:10 鎌田 修 南山大学 元教授 「OPIのインパクト――プロフィシェンシーを志向したことばの教育とは」

米国マサチューセッツ大学大学院博士課程修了。博士(外国語教育学)。アムハーストカレッジ、アイオワ大学、京都外国語大学を経て、南山大学教授(2018年定年退職)。第二言語習得研究会会長、日本語プロフィシェンシー研究学会会長。1987年よりACTFL OPI試験官、1991年より試験官トレーナーを務める。主な著書に『プロフィシェンシーを育てる」(共著・凡人社)など

講師から「今、ここで、あなたは、何が、どのように、そして、どれくらい語れますか? OPIのこの問いは国語教育と日本語教育の壁も越え、生の日本語の使用場面に基づいた一期一会の人間関係の構築を可能にするでしょう」

14:10~14:30 OPI活用事業の事例紹介

14:45~16:05 パネルディスカッション 司会: 奥野由紀子 首都大学東京 准教授

「外国人材受け入れの現状と課題」 山下渉 楽陽食品株式会社管理部 部長 「OPIテストの発問からわかるコミュニケーション能力」 伊東祐郎 東京外国語大学 教授 「多文化共生社会におけるOPIテスターの役割」 嶋田和子 アクラス日本語教育研究所 代表理事



16:05~16:35 牧野成一 プリンストン大学名誉教授 「ポストOPIワークショップで考えること」

1935年東京生まれ。早稲田大学で英文学(学士号/修士号)を、東京大学で言語学(修士号)、米国イリノイ大学で言語学 (博士号)を取得。1991年にプリンストン大学東洋学科教授に就任。2003~05年全米日本語教育学会長、07年日本語教育 学会賞を受賞。2014年瑞宝中綬章受章。主な著書に『ことばと空間』(東海大学出版会、1978年)など。

講師から「今考えるべき点は外国人労働者の問題です。外国人労働者が職場で必要とする日本語をどう教育し、どうやって日本語のレベルを測るか。実践的な日本語教育が必要であり、OPIがわかる教師が重要な社会的貢献ができる時が来ました」

16:35~16:50 質疑応答

16:50~17:00 閉会の挨拶

## お申し込み方法

以下のアルクホームページにアクセスしてお申し込みください。

https://www.alc.co.jp/seminar/#j0407s